

消化器内科

当科の 2025年度 胆膵診療報告と今後の展望 — 高度内視鏡診療の拡充と、胆膵疾患への包括的アプローチ —

2025年度も胆膵内視鏡診療を中心に着実な発展を遂げました。

ERCP や EUS-FNA に加え、Interventional EUS の実施件数も増加し、より高度かつ複雑な胆膵疾患への対応力を高めています。

また、2025年度より肝胆膵外科専門医が常勤で加わり、内科・外科が一体となった胆膵診療体制が本格始動しました。精密診断から内視鏡治療、外科治療、化学療法まで一貫した診療を提供できる体制を整えています。

手技	2023年度	2024年度	2025年度
ERCP	208件	359件	352件
EUS	200件	360件	382件
EUS-FNA	37件	59件	60件
Interventional EUS	—	3件	7件

「黄疸ホットライン」や「すい臓ドック」など、地域医療機関との連携強化および予防医療にも力を入れており、胆膵診療の“入り口”としての機能も拡充しました。

Omori Red Cross 黄疸ホットライン

緊急内視鏡治療の可能性が高い「黄疸」の患者様に関しては、地域の先生方より直接に消化器内科担当医に電話を繋いでいただく体制を準備いたしました。

「緊急内視鏡治療が必要な黄疸＝閉塞性黄疸」を示す疾患例



膵頭部癌
胆管癌
総胆管結石

上記黄疸ホットライン体制は平日8時半～17時までとなりますのでご了承ください

「黄疸ホットライン」

膵頭部癌や結石による閉塞性黄疸や胆管炎など、緊急性の高い症例に迅速対応するための専用連絡ルートです。地域の医療機関からは専用番号を通じて直接担当医と連絡が取れる仕組みとなっており、患者さんの状態や対応の緊急度についてリアルタイムで相談が可能です。

これにより、即日または翌日には ERCP などの内視鏡治療、あるいは入院加療につなげる体制を整えています。

2025年度には15件の緊急紹介を受け入れており、**困ったときにすぐ相談できる現実的な選択肢**として機能しはじめています。

Omori Red Cross

「すい臓ドック」

膵臓がんは早期発見が難しく死亡率の高い疾患で、今後も増加していくことが予想されています。

「すい臓ドック」ではMRI等を用いて膵臓がん(胆のうがん・胆管がん)の早期発見・早期治療につなげることを目標としています。

検査内容：血液検査(膵酵素・腫瘍マーカー等)・MRI検査(MRCP) その他、費用や検査日時などの詳細は当院「人間ドック」のページをご参照ください

「すい臓ドック」の受診が勧められる方

- 家族に膵臓がんになった人がある方
- 糖尿病の方(特に診断から3年以内の方、急激な増悪を認める方)
- 膵炎にかかったことがある方
- 膵嚢胞を指摘されたことがある方
- 喫煙・飲酒をされる方
- 肥満の方

* 当院のすい臓ドックの特徴として結果説明はすべて日本膵臓学会認定膵臓指導医が行います

大森赤十字病院
消化器内科 膵臓ドック担当医 高柳卓矢
消化器内科 部長 井田智則・千葉秀幸
健診部 部長 神原かおり

「すい臓ドック」

膵臓がん家族歴のある方や、かかりつけ医療機関のない一般の方で不安を抱える方を対象に、MRIと腫瘍マーカーを組み合わせた自費の精密検診を提供しています。

2025年度は32件実施しています。

放射線科専門医と膵臓学会認定指導医によるダブル読影体制のもと、結果説明も膵臓学会認定指導医が直接対応することで、信頼性と精度の高い検診体制を実現しています。診断の“入り口”を広げ、拾い上げの機会を逃さないための仕組みとして活用されています。

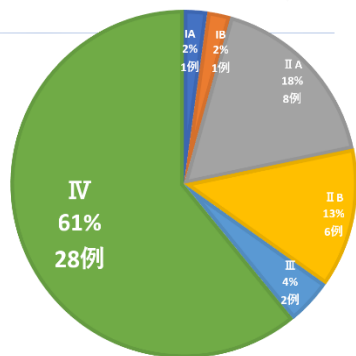
「すい臓がん早期診断プロジェクト」

大森日赤では膵臓がんを早期に発見し治療につなげるため、「大森赤十字病院すい臓がん早期診断プロジェクト」を開始し、地域の先生方と協力しながら、膵臓がんを疑うリスクが発見された場合に精密検査を行い、適切な診断・治療を進めていきます。

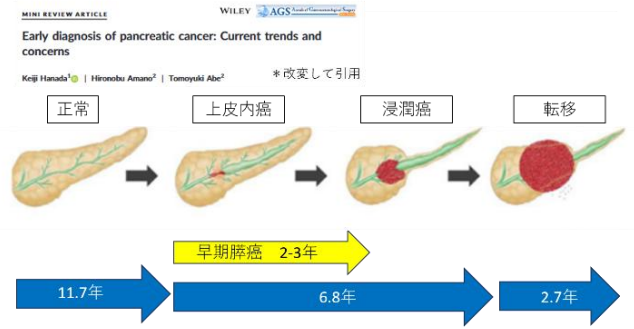
膵臓がんの初診時ステージ (大森赤十字病院)

膵臓がん46例の初診時ステージ 2024年4月～2026年3月

ステージIVが61%



膵臓がんの進行モデル



→ 早期発見で予後は向上
⇒ すい臓がん早期診断プロジェクト

⇒ すい臓がんリスクを有する方をご紹介ください

実際のご紹介方法



月曜日12時、木曜日9時、金曜日午前に膵臓専門外来(すい臓がん早期診断プロジェクト専用)を設定

2026年度以降の展望

2026年度より、地域医療機関との病診連携による「すい臓がん早期診断プロジェクト」を開始いたしました。膵臓がん高リスク患者さんに対してMRIやEUSを活用した精密検査・継続フォローアップを行い、早期発見・早期治療につなげる地域連携モデルの構築を目指します。引き続き、「黄疸ホットライン」「すい臓ドック」のご利用もよろしくお願いいたします。